Nishi Nippon Society for Educational Administration Research

2024 年 3 月 31 日

西日本教育行政学会ニュース　No.67

目　次

会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

顧問のメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

西日本教育行政学会第 4 回研究会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

シニア会員だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

西日本教育行政学会第 46 回大会のご案内（再掲）・・・・・・・・・・・・・8

西日本教育行政学会第 46 回大会の開催について・・・・・・・・・・・・・ 9

事務局・編集チームからのお願い・お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・10

・　会費納入のお願い

・　コラム等への執筆者募集

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

会 長 挨 拶

新しいスタイルでの本学会ニュースをお届けするのが２回目となりました。今号には、本学会の次回大会のご案内のほか、シニア会員制度の導入後にお申し出をいただいた会員からのメッセージ等を掲載しております。若手から中堅会員には先達の回想や激励に刺激を受けることが多いものと思います。今後も学会ニュースを通しての会員相互の交流や情報提供によって、研究活動の活性化に繋がることを期待しております。原北事務局長はじめ、学会ニュース編集チームの皆さまには厚くお礼申し上げます。

さて、会員の研究関心も多様化し、国内における研究上の空白領域補充を意図したものや萌芽的な研究、国際的な視野に立った挑戦的な研究等、本学会の学術的意義も確固たるものになってきました。猛威をふるったコロナ禍もほぼ過去のものとなった感があり、対面での学会、研究会開催も増えております。本学会に限らず「次回大会はどうやって行こうか」といった旅程を考えることも楽しみのひとつであるし、いつもの研究環境を離れることがリフレッシュに繋がって研究上も大きな意義があることは皆さんも経験上体感しておられることと思います。昨年 12 月には広島大学きんさいラボにて研究会が開催されました。本年５月 25 日には第 46 回大会が高松市で開催されます。松原大会準備委員長、藤本事務局長には準備等で大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。本学会ニュースに大会案内が掲載されておりますので、会員の方々には初夏の高松へお越しいただき、活発な議論へのご参加をお待ちしております。

2024 年 3 月 1 日

西日本教育行政学会長　　髙妻　紳二郎

顧問のメッセージ

図らずも、この度本学会顧問に就任することになりました古賀一博です。どうぞよろしくお願いいたします。

前回の河野和清先生の「顧問メッセージ」にも記されていましたように、本学会は名和弘彦先生（広島大学）と中島直忠先生（九州大学）の主導により創設されました。そして、その後しばらくして両先生が本学会最初の顧問にご就任なさったように記憶しております。

それゆえ、この度本学会役員会から顧問就任を打診された際、最初に感じたことは「顧問という役職は学会創設に多大な功労があった先生方の役職であり、私のような浅学非才な人間が就任する役職ではないのではないか」という一種の違和感でした。しかし、その後「それらの先生方もすでに鬼籍に入られ、本学会の行末をご心配になっておられるのではないか」とも考え直し、本学会の発展に少しでもお役に立てることができればと、自身の力不足は十分承知の上で顧問をお引き受けすることにした次第です。

河野先生の前回「顧問メッセージ」における６つの研究アドバイスは大変重要な指摘であり、会員諸氏（とりわけ若い会員）には、どうぞこの貴重なアドバイス、①研究方法論の確立、②理論と実践の往還、③政策提言ができる専門性、④新しい研究領域の開拓、⑤社会・世界的動向への対応、そして⑥地域性の重視、をしっかり意識して研究に専心いただければと思います。私もこの点は全く同感であります。ただし、現実的問題として、これら全てを具備した研究成果が一朝一夕で実現できるものではありませんから、差し当たり個々の研究活動においては、当然強弱濃淡の差はあって良いでしょう。しかしながら、これらのアドバイスは、是非とも会員諸氏の今後の研究指針としていただきたいものです。

ところで、私自身の研究信条は、「研究という神の前では、皆対等」というものです。顧問も会長も理事も一会員も研究活動というフィールド上において何らの違いもありません。それゆえ、私自身も常に一研究者の立場から自身の研究テーマに真摯に取り組み、ささやかですが、その成果を発表し続けてまいりましたし、今後もその姿勢を貫きたいと考えています。学会の役割は、この対等な研究者同士が互いの研究発表内容を自由闊達にそして建設的に分析し合い、より高次の研究成果に昇華させていくことにこそあると考えています。

どうぞ皆さん、今後ともお互いにこの尚かい志の下、切磋琢磨して教育行政学研究を着実にそして楽しくやっていきましょう。皆さんの研究活動の充実、そしてそれを通した本学会の発展を心から祈念しています。

2024 年 2 月 10 日

西日本教育行政学会顧問　　古賀　一博

西日本教育行政学会第 4 回研究会の開催

2023 年 12 月 23 日（土）、JR 広島駅近くに新設された「広島大学きてみんさいラボ」において西日本教育行政学会第 4 回研究会を開催しました。本学会では毎年開催している大会に加えて、特に若手研究者の研究促進を目的として毎年 12 月に研究会を開催しています。コロナ禍で第 42 回大会（2020 年度）と第 43 回大会（2021 年度）がそれぞれ 12 月にオンライン開催となり、第 44 回大会（2022 年度）も対面でしたが 12 月開催となったことから、研究会はこの間中止されていました。第 45 回大会（2023 年度）がようやく 5 月に開催できたことを受け、この度、研究会を 4 年ぶりに再開することができました。

研究報告は橋本拓夢会員（広島大学大学院・院生（D3）／日本学術振興会特別研究員 DC）にお願いしました。発表題目「タイにおける地方教育ガバナンス改革に関する研究―「仏暦 2560 年（2017 年）タイ王国憲法」下の法制改革と地方における運用実態に着目して―」について約 1 時間の発表が行われ、その後、休憩を挟んでさらに 1 時間以上にわたる活発な質疑応答が続きました。

今回は初の試みとして対面とオンライン（ZOOM）によるハイフレックス方式で実施し、対面参加 14 名、オンライン参加 5 名、合計 19 名の皆様にご参加頂きました。研究会終了後には懇親会も行われ、楽しいひとときを過ごすことができました。お忙しい中、ご参加くださった会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

研究促進委員長　吉田 香奈（広島大学）

前列左から２番目が橋本会員です。ご報告ありがとうございました。

西日本教育行政学会第 4 回研究会の開催

当日ご発表された橋本会員より、ご感想をいただきました。改めてお疲れ様でした！

昨年末の 2023 年 12 月 23 日、西日本教育行政学会第 4 回研究会で報告させていただきました、広島大学大学院・院生の橋本拓夢です。

当日は「タイにおける地方教育ガバナンス改革に関する研究―『仏暦 2560 年（2017 年）タイ王国憲法』下の法制改革と地方における運用実態に着目して―」と題した博論進捗状況を報告させていただきました。

学会ウェブサイトに記載のように、「将来の構想を含めた研究成果について、十分な時間をとって発表し、研究の発展・促進を主眼とした質疑応答をじっくりと行」う貴重な（ひょっとすると二度と無い）機会をいただけたと実感しております。

これまでも指導教員から「木を見て森を見ず」にはならぬようにと、繰り返しご指導を頂いておりました。しかし、研究会をとおして未だ論文全体を貫く「串」の検討が十分でないことが改めて課題に挙がりました。2024 年はこの「難題」に向き合いながら、博論完成を目指す年として一層精進して参ります。

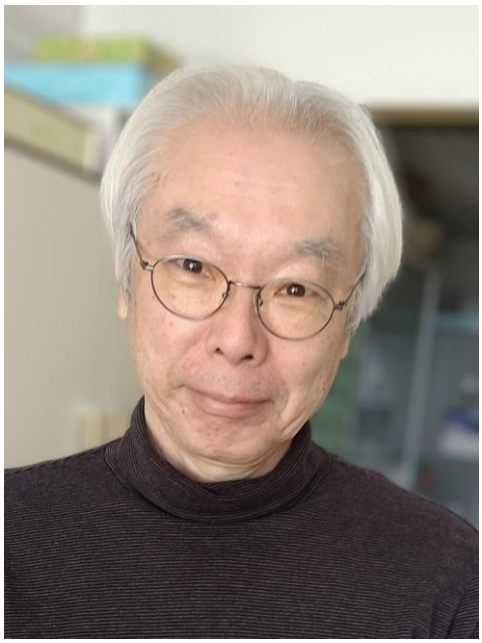
末筆ながら、研究会の準備・運営を引き受けていただいた研究促進委員長の吉田香奈先生に御礼を申し上げます。学会員の先生方におかれましても、今後ともどうぞご指導・ご鞭撻くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

シニア会員だより

今年度より「シニア会員」制度が設けられました。そこで新たにシニア会員となられた先生方から近況を含めたコメントをいただきました。今号では菅井会員と岡本会員にご登場いただきます。ぜひご覧ください。

会員歴４４年を経て

広島文教大学 名誉教授　菅井 直也



本学会が前身の「教育行政学研究会」の名で誕生したとき、修士課程の院生としてその場に居たことを朧気に記憶している。広島大学の名和弘彦教授と九州大学の中島直忠教授の交流の中で想が練られ実現した研究団体だった筈だが、他の学会との関係も含めての仔細は、学部を出て間もない下っ端院生だった小生の知り得ないことである。

第１回の研究大会に先立ち、学会誌『教育行政学研究』創刊号が刷り上がっていて、これの梱包をいくつか広島から会場まで運ぶのが、下っ端院生の役目であった。出発地は広島市東千田町にあった広島大学教育学部、往路は広島・別府間をフェリーで移動した気がする。目的地は大分市内の旅館「竹別荘」。タケベツソウではなくタケ・ベッソウ。庭園風の敷地に戸建住宅のような客舎が点在する閑静な宿である。ラブホテルと間違えて迷い込み、拒まれる客もいるというスタッフの言を記憶している。

和室で研究発表があり、設立総会の議事もあった筈だが、下っ端院生には、畏まって隅に坐り諸先輩のハンドアウト資料をめくっていた記憶があるのみ。

翌朝、定期観光バスで国東半島のいわゆる六郷満山を巡ったのだが、バスの録音による説明が所々チグハグである。後に聞けば名和教授がバスガイドとドライバーを急かした故の省略だったという。われわれ一行以外のお客もわずかながらいた筈だけれど‥‥。

古刹を訪ねて田舎道を往くバスは学校の傍をも通り、細い道で児童生徒が道端によけていたりするのだが、大先生や諸先輩は何の関心も示していないように見える。「教育学者がそれで良いのか？」と違和感を禁じ得なかったのを憶えている。

下っ端院生の記憶は、斯くの如く頼りない。これ以降のン十年には、学会事務を手伝い、理事ほかを務めた会員生活があるけれど、会員としてたいした自覚もなく、思い出すエピソードもないので省略。

以下は、直接の学会活動の話題ではないが、長年の周辺体験による発見の一端である。

かつて輸入商の通販目録を頼りに米国の年刊資料を入手したら、何と米国の有名大学の蔵書印が

ある品が届いた。もちろん消印されているのだが、何でまた貴重資料を廃棄するのかと不思議だった。実は現地でマイクロフィルム化して原本を廃棄し、それを日本の研究者が有り難がって買っていたのである。後年、同様のことが日中間の古書市場で生じたようだが、資料の保存や扱いが、新技術に移行してゆく途上にあることを実感した瞬間であった。その後、ご存知デジタルデータでの保存と活用の時代に入る。

デジタル化の進行で、文献検索の方法が大きく変わった。図書館の書庫に潜り込んで、背文字と目次を虱潰しに解読しながら、手書きでリストアップしていた力仕事は、今の若い会員諸氏には殆ど無縁だろうけれど、古い世代は、この作業によって頭の中が自動的に整理されてゆく――気障な言い方だが、指に憶えさせていたのだろうと思う。授業や会議のノートテイクの価値もこのあたりにあるのではないか。様々な宗教で「写経」やそれに類する筆耕が未だに廃れないのも、人類が経験的に見出した本質的ともいえる脳の使い方だからではないだろうか。今でも、難解な記述に出会うと、わざわざ手書きで書き写して理解を図っているのだが、その度に思うことである。

手作業による検索の過程では、目下の研究テーマから離れた周辺領域やサブテーマの文献が否応なしに視野に入り、気になる資料をメモしたりリストアップすることがあったが、これが後に役立つことが幾度もあった。大学院を抜け出せた就職先は何と心理学担当！ その後、教育と福祉の狭間が主専攻になったが、退職直前になって保育や防災危機管理まで守備範囲にしたポストを務め得たのは、ピンポイントではない周辺領域の資料収集が習い性になっていたからこそであろう。この点、生成ＡＩに見解を求めてみたい気もする。

理工系の研究者に交じって大学の計算機センターの大型コンピュータ（今のパソコンの方がはるかに高性能になった）を使っての統計処理に挑んだことや、ワープロ専用機の導入やパソコンで数々のワープロソフトや表計算ソフト、データベースソフトを片端から試用したことなど、情報技術絡みのエピソードもあるけれど、いまとなっては化石情報に過ぎない体験談なので省略。ご関心の向きは懇親会の席で‥‥。

西日本教育行政学会と私

広島修道大学　名誉教授　岡本　徹

1979(昭和 54)年４月、中国･四国地区および九州地区において教育行政学研究に従事する者を主たる会員として「西日本教育行政学会(1982 年発足)」の前身である「教育行政学研究会」が発足しました。当時、院生の私は、同年 11 月に大分県中津市で開催された第１回大会で「教育計画策定に関する方法論―費用便益アプローチ（Cost-benefit Approach）を中心に―」という題目で、1 番目に発表させてもらいました。そのことで、この学会は私の発表から始まったと密かに自負している自分がいます(笑)。その後、3 回の報告と 7 編の論文を掲載しました。規模の小さい学会ではありますが、一部会のみでの研究報告と厳しい質疑及びしっかりとした論文レフェリーシステムは、大きな緊張感の中で、私の研究面での成長を促していただいたと感謝しています。また、東亜大学時代に 1 回、広島修道大学時代に 3 回、大会開催校をお引き受けしました。特に、学会会長時の第 40 回大会で､6 年近くにわたって広島市教育長を務めた尾形完治氏に｢教育行政に携わって｣と題した学会 40 周年記念講演をお願いしたことは、深く印象に残っています。

昨年 3 月に、41 年間の大学教員生活に終止符を打ちましたが、西日本教育行政学会は常に近くにあり、そこから得たものは大変多かったと思っています。今後の学会の益々の発展を衷心より祈念いたします。

さて、退職して 1 年が経とうとしています。やっと生活のリズムが整い始めたかなと感じています。昨年から始めた山登りは 12 座登頂、今年は 20 座を目指します。外国人による料理教室にも欠かさず通い、イギリス人から教わった本場のスコーンを焼くことは日常化しています。これまでいけなかったコンサートにもたくさん行きました。一日中、読書する日もあります。ふと、これまでとの違いに気がつきました。これまでは、何をするにも、頭のどこかに仕事のこととかがくっついて離れなかったのでしょうね。今は、コンサートにしても、没頭して、心底楽しんでいる自分に気づくのです。

この度、シニア会員が制度化されたことは、大変ありがたいです。脳に刺激を与えるためにも、できる限り、大会へ参加したいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

西日本教育行政学会第 46 回大会のご案内（再掲）

2024 年 2 月 2 日

西日本教育行政学会会員
各位

西日本教育行政学会第 46 回大会準備委員会
委員長　松原 勝敏

西日本教育行政学会第 46 回大会のご案内

向春の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、西日本教育行政学会の第 46 回大会を下記の要領にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。
つきましては、ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、会員の皆様の研究発表の積極的なお申し込みとともに、お一人でも多くの方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

記

1. **大会期日**　2024 年 5 月 25 日（土）

2. **大会会場**　高松大学 2 号館　2105・6 講義室（香川県高松市春日町 960）

3. **大会日程**（予定）
   10：30 ～ 12：00　役員会（2 号館 2 階 2217 演習室）
   12：30 ～　受付（2 号館 1 階）
   13：00 ～ 16：00　研究発表
   16：10 ～ 17：00　総会
   18：00 ～ 20：00　懇親会（琴電瓦町駅近くで開催予定）

4. **参加費**　会員・臨時会員：2,000 円　懇親会費：5,000 円(院生：3000 円)

5. **研究発表の申込**　申し込みは終了しました。

6. **研究発表時間**　個人研究：15 分　質疑応答：10 分
   共同研究：原則として 1 人 15 分程度×人数、質疑応答：20 分

7. **大会プログラム**　大会プログラムは 4 月中旬までにお届けする予定です。

8. **連絡先**　西日本教育行政学会第 46 回大会準備委員会事務局
   委員長：松原 勝敏　matubara@takamatsu-u.ac.jp
   事務局長：藤本 駿　fujimoto@takamatsu-u.ac.jp

9. **その他**　宿泊に関する斡旋・予約等につきましては、大会準備委員会では手配いたしかねますので、各自でお願いいたします。なお、懇親会を琴電瓦町駅近くで開催予定なので、瓦町周辺のホテルをご利用ください。
   大会へのご要望・ご意見等がございましたら、大会準備委員会までお願いいたします。

以上

西日本教育行政学会第 46 回大会の開催について

2024 年 5 月 25 日、西日本教育行政学会第 46 回大会が松原勝敏会員を大会準備委員長として、高松大学で開催されます。ぜひ多くの会員の方々においでいただくことを心よりお待ちしております。

高松大学での開催は、2006 年開催の第 28 回大会以来であり、18 年ぶりです。私はちょうど広島大学大学院修士課程に進学したばかりで、初めて参加した学会がこの第 28 回大会でした。古賀会員を中心とした共同研究（「能力開発型」教職員人事評価制度の運用実態とその課題）では、市田会員や唐澤会員がフロアからの厳しい質問に堂々と答えているのを見て、自分にこのようなやり取りができるようになるのかと不安を感じたように思います。次の年の第 29 回大会（鹿児島国際大学での開催）では初めて研究発表する機会があり、かなり緊張した記憶があります。その後も何度か発表させていただきました。厳しい質問の中にも温かい励ましのお言葉も多く、私自身励みになってきました。大学教員としてのスタートラインに立たせていただいた学会のように感じています。縁あって 2020 年に高松大学に着任し、今回開催する側に回れたことは本当に嬉しい限りです。

高松大学は、香川県高松市に所在する小規模な私立大学です（上の写真は大会会場の 2 号館です）。高松大学短期大学の頃も含めると、佐竹会員や古賀会員も勤務されたことがあります。ちなみに私の研究室は佐竹会員が使用されていた研究室であり、佐竹会員が長年所蔵されていた図書が多く残されています。教師研究に関する貴重な図書は、同じ関心を持つ私にとっては参考になるものが多く、大変感謝しています。

私が所属する発達科学部は幼児教育コース、児童教育コース、特別支援教育コースの 3 つがあり、主に保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭を目指す学生が在籍しています。県内の高校からの進学者がほとんどであり、卒業生には県内の保育・教育現場で勤務する者が多く、地元とのつながりが強い大学です。

ところで、香川県と言えばうどんですね。私も香川県に住む前はそこまでうどんを食べていたわけではありませんでしたが、いざ住み始めると、安くて早くておいしいので、うどんばかり食べています。大学の近くにも歩いて 10 分ほどの距離にうどん店が 2 つあるので、時間があるときは学生に交じってうどんを食べています。5 月に来られたときにぜひ行ってみてください。

また、「うどん県」にはうどんしかないのかと思われがちですが、うどん以外にもおいしいものが沢山あります。骨付鶏、オリーブ豚、オリーブハマチ、しょうゆ豆、小豆島素麺など、挙げたらきりがありません。懇親会では、香川県の特産物を味わえるお店で開催予定なので、ぜひご参加ください（詳細は 4 月半ばの大会プログラムをご確認ください）。

最後になりましたが、改めて多くの会員の皆様に来ていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

第 46 回大会準備委員会事務局長　藤本　駿（高松大学）

事務局・学会ニュース編集チームからのお願い・お知らせ

・　<u>会費納入のお願い</u>

学会費未納の方はお支払いただきますようお願いいたします。会費は年額 6,000 円（学生会員は 3,000 円）となっております。また、過年度分を未納の方は、それにつきましてもよろしくお願い申し上げます。

郵便振替口座番号　　０１７６０－９－１６５５４４

加　　入　者　　名　　西日本教育行政学会

＊会則で「3 年以上会費納入を怠った者は、本会から除名されることがある」（第７条）と規定されておりますので、申し添えます。

・　<u>コラム等への執筆者を募集しています！</u>

前号より学会ニュースを一新いたしました。今後、学会ニュースは年 2 回の発行を予定しております。いくつかの「コラム」企画を「学会ニュース編集チーム」にて検討しております。次号では「シニア会員だより」だけでなく、「教育行政学関連科目の授業紹介」や「私の最近の研究関心」を掲載する予定です。コラムに寄稿いただける会員を募集しております。自薦・他薦は問いませんので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします！なお、「ぜひこの内容を会員の先生方にお伝えしたい！」という企画案のご提示もお待ち申し上げております。

編集後記

学会ニュース第 67 号をお届けいたします。今号は新たに設けられた「シニア会員」となられた会員から近況を含めたコメントをいただきました。脈々と続く西日本教育行政学会の歴史の一端に触れることができたのではないでしょうか。次号も「シニア会員」の先生方にコメントをいただく予定です。そのほか、コロナ禍を経て再び始動した研究会の開催報告も掲載しております。少しずつ研究活動・交流が復活していることを実感します。次回大会（高松大学）でも活発な議論ができることを楽しみにしております。

さて、本学会ニュースでは多くの会員の皆様へ原稿依頼をさせていただきました。ご自身のお写真の提供依頼とともに限られた字数での原稿依頼をさせていただいたにも関わらず、読み応えのある内容になっております。今回ご執筆いただいた会員の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

次号以降も充実した学会ニュースとなるよう編集チーム一丸となって取り組みますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（原北祥悟）

【学会ニュース編集チーム】

原北　祥悟（崇城大学）、小早川　倫美（島根大学）、黒木　貴人（福山平成大学）

唐澤　健（教職員支援機構）、橋本　拓夢（広島大学大学院・院生）